

「ボランティア経済」

PDG 塚原房樹 (札幌東 RC)



「ボランティア経済」なるものが誕生してから 20 年近い歳月が経過しました。また、社会セクター、独立セクター、非営利セクター、よびかたはいろいろですが、そうしたセクターの出現はごく最近の現象です。

元々、第 1 セクターは、国や地方共同体、第 2 セクターは民間企業、第 3 セクターという、半官半民のことを指しました。これと違ってサードセクターと英語でいうとき、それは NPO のことをいいます。これから大切になるのは、第 3 のセクターで、前 2 者とは異質の世界です。これをボランティア経済といえます。

ボランティア経済を支える人たちの活動は、利他主義に基づきます。他人への奉仕が自己の喜びにつながる、自発的で無報酬の行為です。このように友愛哲学に支えられているところは他のセクターと根本的に違うところです。

数年前ある RI 会長は、ロータリーは世界最大の NPO であると喝破しました。では公共財・サービスのプロバイダーとしての NPO はロータリーにどのような位置づけを与えているのでしょうか。

確かにロータリーは活動の基本的目標からいって NPO の 1 つとして位置づけられるでしょう。しかし世の中には非営利組織であるけれど、同時に非公共的なタイプの組織も多くあります。趣味、嗜好やスポーツのクラブがそれです。このタイプはサービスといっても会員に対してだけあります。しかるにロータリーはクラブ奉仕といってもそのサービスの最終目標は、職業・社会・国際・青少年奉仕を行動化するためのエネルギーの蓄積におかれています。だから会員向けのサービスといえども実は、ロータリーを一つの大きな社会教育機関あるいは学校だとすると、クラスメイトとしての親睦を図る基本コースなのです。

だからロータリーは二重人格の性格を帯びるがごとくに見えますが、そうではないのです。職業倫理を高めるコースといってよいかもしれません。同時にロータリーの学校の使命は、ビジネスや、社会各層のリーダーを育成することです。その意味からいえば、ロータリーは NPO のなかの先導役を果たすべき立場にあるとみられます。

ボランティア経済の活動領域の中でロータリーそのものが「道しるべ」の役割を果たすことが今、求められているのです。

近年、RI はこれらのロータリー運動の本質を置き去りにして、数に頼る非営利組織を目指しています。会員の退会者が多いのは、ロータリーの本質を忘れ、ロータリークラブの構成員の満足が得られないからでしょう。